

社会性に欠ける分裂病患者への生活指導を試みて

— 円滑な家庭生活が送れることを目指して —

1 階東病棟

○山田 純代・長山 玉代・苧坂 和代

横山 道佳・西森 まち・田井 雅子

森田 富美・大菊みどり・藤村 洋子

I はじめに

精神分裂病患者の示す幻覚，妄想，激しい興奮等の急性期症状は薬物療法を中心とした狭義の治療によって比較的容易に安定させることが可能になった。しかし，日常生活能力の低下，対人関係のまずさ等に関しては，薬物療法はあまり効果がない。分裂病患者にとって，病院という限られた場での生活により，社会，家族との結び付きがうすれてしまい，社会的に自立を阻まれてしまうのである。そこで，社会復帰に向けて，日常生活能力の低下，対人関係のまずさ等の問題点を入院中からいかに援助していくかが重要になってくる。

今回，社会性に欠ける分裂病患者に関わり，円滑な家庭生活が送れることを目標として，日常生活能力の向上と家族との関係を深めるよう援助したのでここに報告する。

II 研究期間

平成4年5月22日～平成4年9月30日

III 患者紹介

1. 氏名：○田○和，22才，女性
2. 病名：精神分裂病（妄想型）
3. 家族構成：両親との3人暮らし。兄は県外で就職しており，県内にいる姉は嫁いでいる。
4. 現病歴：元来，おとなしく几帳面な性格であった。高校3年生の頃から独語，空笑がみられ，大学入学後の平成元年8月，家族に支離滅裂な内容の話をするようになった。9月初旬，車を片っ端から止める，裸足で山道を登るなどの行動があり，二度警察に保護され，閉鎖病棟へ入院する（第1回目）。翌年3月退院し，外来通院していたが，確

実な服薬はできていなかった。平成3年10月頃より妄想、不眠、放歌、脱衣行為等の症状が出現し、平成3年12月、今回の入院となる。

IV 入院後の経過

入院後、約2カ月間は保護室を使用し、症状は徐々におさまるが、時折、性的行動や、突然窓を開け外に向かって叫ぶ等の行動がみられた。また、感情の易変動性があり、周囲との協調性に欠けていた。両親の来院は約2週間に1回程度であり、来院しても本人には面会せず、状態を聞くだけで帰ることもあった。面会してもよそよそしい態度で脅えており、早急に切り上げることが多かった。一方、患者は面会後に興奮状態となることがしばしばあった。

V 看護の実際

1. 問題点

- 1) 集中力、協調性がなく感情の易変動性があり、日課への参加にムラがある。
- 2) 家族が、患者及び疾患に対して理解ができておらず、家庭復帰が困難である。

2. 看護目標

社会性を身につけると共に円滑な家族関係が作れる。

3. 対 策

- 1) レクリエーション（以下レクと略す）の準備・片付けを依頼し、役割を持たせる。
- 2) 自分で買い物に行き、こづかい帳をつけて金銭管理を行う。
- 3) 家族との散歩、外出を促し、接する時間を増やす（そのときの状態を家族にチェックリストに記入してもらう）。（チェックリストは資料1参照）
- 4) 日中時間を決め、興味のあるワープロを使用させる。

4. 経 過

6月15日、患者に退院に向けて、家へ帰っても自分のことは自分で出来るようにしようとして説明し、前述の対策4項目と日課への参加、身だしなみを整えることを約束した。本人も積極的で自分のノートにメモをしていた。家族に対しても同様の説明をし、特に対策2)、3)について協力を依頼した。

対策1)では、以前はレクの内容によって参加しなかったり、途中でやめてしまうことが多かったが、約束をした翌日からは、自主的にレクの準備、片付けを行い、最後まで参加することができるようになった。その都度看護婦が「ありがとう」「良くできたね」と声をかけ

た。8月下旬頃より抑うつ状態となり、レクに参加しないことが時々あった。9月3日より抗うつ剤が開始され、徐々に抑うつ状態は改善され再びレクの準備、片付けが休まず行えるようになった。

対策2)では、従来は月曜日から金曜日までの売店出張を利用していたが、①意欲を持たせる、②金銭管理を身につける、③外部との接触及び対応の仕方を身につける、を目標として、看護婦が付き添い売店へ買い物に行くことにした。金額については、患者、家族、看護婦との話し合いで週に2千円とし、毎週の残金は繰り越さないこととした。当初より、本人から誘いに来るなど積極的ではあったが、売店では何をかうのか迷い、30分程要したり、翌日になって「買ったものを返品したい」と言い出し、返品に行くこともあった。そこで再度患者と話し合い、「返品はしない、所要時間は20分以内」と決めた。以後、精神状態に悪化をきたす7月下旬までは問題なく行えた。8月から9月は気分の易変動性が目立ち、行くか行かないか、買うか買わないか迷い、決断力の低下がみられた。

手持ちの金額内での買い物はでき、こづかい帳への記載も出来ていたが、計算ミスが目立っていた。

対策3)では、家族ができるだけ患者とかかわる時間を多くもつように、また、患者自身と患者の病状を受け入れることができるように働きかけた。平日に面会に来てもらい、一緒に売店で買い物、院内散歩に行くように促した。散歩中時に妄想的言動が見られたが、面会後は大きな変化はなく落ち着いていた。母親にまかせきりだった父親も母親と交互に来院するようになり、6月下旬には1週間に1回位の割合で外出を開始した。時々妄想的言動が見られ、帰院後、家族から不安を訴えてくることがあり、その都度、対応の仕方を話し合ったり、励ましたりした。また、最初は両親共に外出することに不安を感じていたが、繰り返すことによって徐々に不安は軽減し、妄想に対する対応にも慣れていった。

対策4)では、日課以外何もせず過ごしていることが多かった為、患者が興味をもっているワープロを、決められた時間に使用することを計画した。患者はワープロを取りには来たが、何も打たずに返すことが多かった。

Ⅶ 考 察

対策1)では、退院後の生活のためと患者に説明し、目標を明確にすることで、患者がやる気となるきっかけになった。意欲がなく、無為に過ごす患者に対して、看護婦が具体的に患者の能力にあった役割を見だし、場を提供して行くことが大切であるとする。患者は役

割を持ち、そのことを周囲から評価されることで自信を持ち、意欲の向上につながったと思われる。

対策2)では、当初より買い物及びこづかい帳の記入は積極的に行えており、社会復帰への意欲が感じられた。また、買い物を通して生活圏も広がり、マンネリ化しがちな閉鎖病棟での生活に良い刺激になったと考える。外部との接触及び対応の仕方については問題はなかったが決断力に欠けていた。私達は今後も繰り返し買い物を続けながら、患者の問題を適宜指摘し、指導を行って行くことで、状況に応じて迷いながらも時間的配分が自分でできるように方向づけていくことが必要だと考える。

対策3)では、チェックリストを作成し、活用した事により、それまでは漠然としかつかめなかった家族の不安や家族にしか見せない患者の言動を把握することができた。入院の長期化、疾患に対する恐怖、対応の困難などにより疎遠になりがちだった両親に、接する機会を多く持つように働きかけることで、両親も患者自身を受容できつつあり、また自信を持つことができたのではないだろうか。患者は、家族が定期的に散歩、外出へと連れ出してくれるようになったことで、自分に対し関心を持ってくれていると感じ、安堵感が得られたのではないと思われる。患者には家族が必要であり、家族にとっても患者が自分達の一員であることを認識し、患者を支えていこうという気持ちを持たせることが大切である。

対策4)では、ワープロが使用出来なかったのは、患者が何を打っているのか分からなかったためであると思われる。分裂病患者においては、意志・感情・思考判断等の障害がある為、患者の能力に合った具体的な計画を立て、断定的に指示を与える事が必要であると考えます。

分裂病患者に対する看護婦の役割とは、患者の社会復帰を目標として、患者がもっている生活障害に対する働きかけをすることである。具体的な日常生活、対人関係などについて、現実的に患者の能力に合わせた形で計画し、患者自らがそのことを体験、学習していくことのできる「場」と「機会」を提供し、それに即した指示、援助をしていくことである。また社会復帰していく患者を支えていく家族とは、患者の治療者の一員でもあり、また患者と同じく被治療者であるとも言える。こうしたことを十分理解したうえで、家族を含めた看護をしていくことが大切であると考えます。

Ⅶ おわりに

この症例を通して、分裂病患者の社会復帰が非常に難しいことを痛感した。特に家族との十分なかわりを持ち、協力を得る必要があると感じた。今後も患者及び家族に根気強いア

アプローチをして行きたいと思う。

参 考 文 献

- 1) 藤森禧夫：社会復帰と家庭の役割，精神科看護，第25号，1987.
- 2) 仲野 栄：精神分裂病患者の家庭復帰を考える，看護技術，Vol. 34，No. 7，1988.
- 3) 吉松和他：精神分裂病患者の入院治療，医学書院，1979.
- 4) 平山朝子他：精神分裂病患者の看護，日本看護協会出版会，1975.
- 5) 日野原重明他：精神障害・心身看護マニュアル，学習研究社，1987.
- 6) 加藤正明他：精神保健と精神科医療，中央法規出版，1989.

【資料1】

外出（散歩、買い物）日誌

御家族の感想をお書き下さい。

付き添い者

月 日, 時 ~ 時

行き先

1. 今回の外出はいかがでしたか。○で囲んで下さい。

①良かった	どちらでもない	良くなかった
②緊張した	少し緊張した	緊張しなかった
③不安はなかった	※少し不安だった	※とても不安だった

※どのように不安があったのかお書き下さい。

2. 妄想のような言動はありましたか。あればその内容を書いて下さい。

なかった	あった
------	-----

3. 会話や言動にまとまりはありましたか。

なかった	あった
------	-----

4. 気分が突然変わるようなことがありましたか。あればどういう時であったかお書き下さい。

なかった	あった
------	-----

5. 気になる言動はありましたか。あればどういう行動であったかお書き下さい。

なかった	あった
------	-----

6. 前回の外出と比べてどうでしたか。○で囲んで下さい。

良くなっている	変わらない	悪くなっている
---------	-------	---------

7. その他に何かお気付きの点がありましたらお書き下さい。